

内幸町ホール アワード

第4回

シャンソン・ コンクール

2019年8月18日(日)

千代田区立内幸町ホール

13:00開場 13:30開演

入場料 前売 5,000円 / 当日 6,000円(全自由席)

日本で一番数多くシャンソン・コンサートが開催されている千代田区立内幸町ホール。

その内幸町ホールとNPO法人シャンソネットがタッグを組み、日本で唯一のシャンソン専門誌「シャンソンマガジン」の全面的な協力のもとで開催するのがこの「内幸町ホールアワード シャンソン・コンクール」だ。

音楽への探求心と歌うことへの強い意志をもつ個性ある歌い手にとって、より広く知られ、その活動を飛躍させる手がかりになるだろう。

日本のシャンソンの活性化を願い開催されるこのコンクールは、国内の他コンクールやシャンソンの普及活動へのエールを送る試みでもあり、他コンクールの優勝者や入賞者の歌や経験談も審査結果を待つ間に楽しめる。

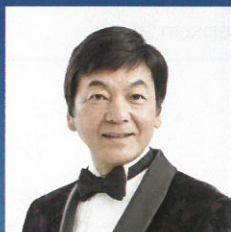
コンペティションとしての公平を期すために、音源審査では応募者の名前、経歴は一切伏せられたまま行われる。

今年はどうな歌、歌い手が…期待は大きい。

Topics

昨年よりオーガナイザーとして千代田区立内幸町ホール館長の関根英成氏も審査に参加。グランプリ1名、優秀歌唱賞4名を選出します。さらに観客の方たちに投票していただきオーディエンスアワード(観客賞)1名を選出します。

審査員



広瀬敏郎

兵庫県出身。立川清登氏に声楽を師事。石井好子氏、深緑夏代氏にシャンソンを学ぶ。'72年日本シャンソンコンクール3位入賞、'73年カンツォーネコンクール3位入賞。毎年7月の『バリ祭』出演。10月に『気ままなコンサート』、12月の『Xマス・ディナーショー』開催。2016年に『歌手生活45周年記念リサイタル』開催。ピアノの弾き語りもする他、カルチャーで講師も勤める。CD『旅立ち』他6アルバム発売中。



高橋良吉

東京都渋谷区に生まれる。様々な音楽活動を経た後、カンツォーネを村上進氏に師事。ライブハウス「Una canzone」の設立、および運営・経営に携わる。イタリア語、ピアノを学びながらライブハウス、ホールでのコンサートに数多く出演。1991年にキングレコードから「フィレンツェの空」をリリース、現在は若手歌手の育成に力を注いでいる。



奥野秀樹

富山県生まれ。1972年東京大学在学中に日本シャンソンコンクールで優勝し歌手デビュー。79年より田辺音楽出版にてレコーディング・プロデューサーとして研ナオコ「夏をあきらめて」、Le Couple「ひだまりの詩」、キンモクセイ「二人のアカボシ」などを手掛ける。2008年よりアーティスト活動を再開し、シンガーソングライター&プロデューサーとして活動を続けている。



藤原和夫

福岡県出身。東京音楽大学ピアノ科卒業。在学中より淡谷のり子、高英男、石井好子、芦野宏等の伴奏者として、国内外のステージで活躍。1984年「銀巴里」の専属ピアニストとして迎えられ、閉店まで美輪明宏を始めとする日本を代表するシャンソン歌手、殆どの伴奏を手掛ける。金子由香利の専属としても全国のコンサートに参加。自由が丘にある自らのスタジオ<ラマンダ>では、講師としても活動し、シャンソンの普及に努める。



クミコ

1982年、「銀巴里」でプロ活動をスタート。2010年、NHK「紅白歌合戦」初出場。翌年、石巻にて東日本大震災に遭遇し被災。2014年、スコットランド民謡の日本語版「広い河の岸辺〜The Water Is Wide〜」が話題となる。2015年、作曲・プロデュースつくみ、作詩・湯川れい子「うまれてきてくれて ありがとう」が、レコード大賞作曲賞を受賞。2016年、三木たかし未発表曲「純情」をリリースするなど、常に音楽界の話題をリードしている。

オーガナイザー



関根英成 千代田区立内幸町ホール館長

日本で一番多くのシャンソン関係のコンサート、イベントが開催される千代田区立内幸町ホールの館長として長年多くのステージを支えてきた。バックステージからの視点で、オーガナイザー審査員として今回から審査に携わることとなった。